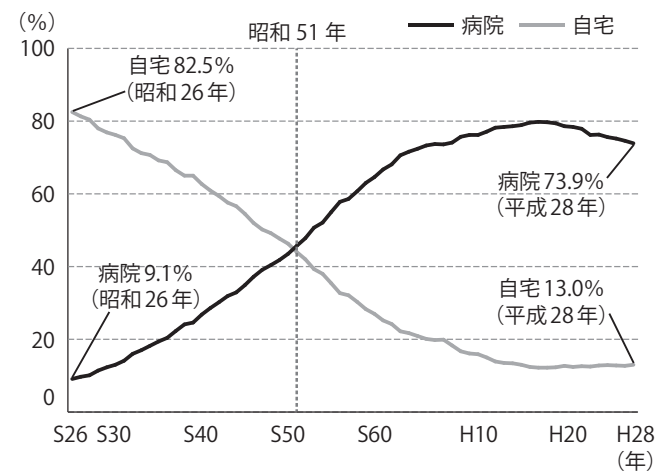
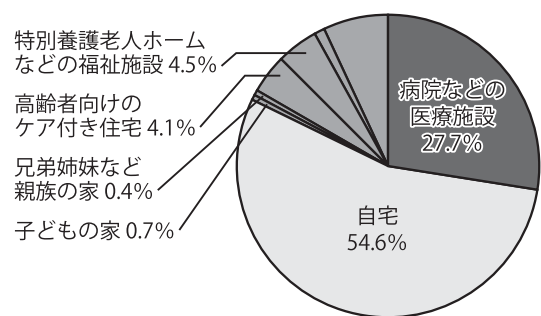


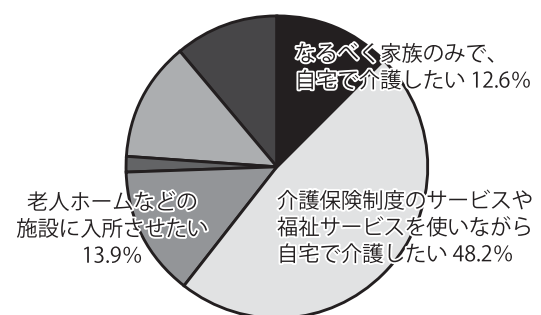
【グラフ 2】日本人が最期を迎えた場所の推移



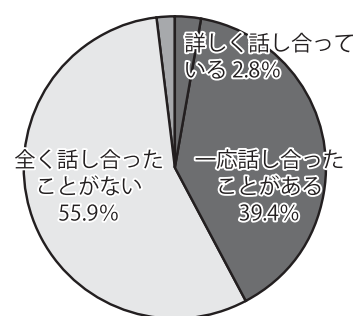
【グラフ 3】最期を迎えたい場所



【グラフ 4】家族に介護が必要となった場合に介護したい場所



【グラフ 5】人生の最終段階における医療についての家族との話し合いの有無



「病院死」が一般的になった現在も、多くの人は「自宅」を望んでいる

昭和51年以降、日本人が最期を迎える場所は「病院」が代表的となりました。現在、日本人の7割以上が病院で最期を迎えており（グラフ2）、伊豆の国市でも約75%の人が病院で亡くなっています（平成27年、県統計データ）。しかし、亡くなる人が増加していく将来、病院のベッド数が限られてくる恐れもあります。

一方で、高齢者の健康に関する意識調査では、半数以上の人が「自宅」で最期を迎えたいと希望しています（グラフ3）。また、市の調査でも、家族に介護が必要になったときに介護したい場所は「自宅」が6割を占めます（グラフ4）。

医療や介護が必要となる本人も、それが必要となったときに看る家族も、多くの人が「最期を迎えるときには自宅で過ごしたい」と望んでいるといえます。しかし、実際は「病院」が多くなっている状況です。「希望」と「現実」には大きな違いが出ているようです。



グラフの出典

- 【グラフ 1】2016 年までは厚生労働省「人口動態調査」、2017 年からは国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成 29 年推計）」
- 【グラフ 2】厚生労働省「人口動態調査」
- 【グラフ 3】内閣府「平成 24 年度 高齢者の健康に関する意識調査」
- 【グラフ 4】伊豆の国市「伊豆の国市高齢者保健福祉計画 第 6 期介護保険事業計画」
- 【グラフ 5】厚生労働省「人生の最終段階における医療に関する意識調査」

いずのくにで生きる

～在宅医療・在宅介護・地域のちからを考える～

市役所保健福祉・こども・子育て相談センター
☎ 0558-76-8010

“ターミナル・ケア”という言葉聞いたことがありますか。

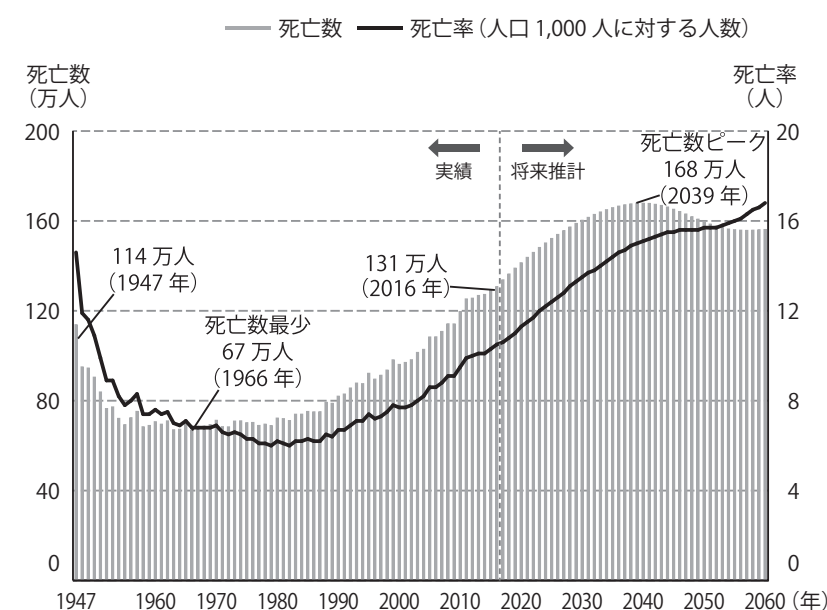
列車やバスなどの乗り物に例えると、「ターミナル」はさまざまな路線が行き交う「起点」であり「終点」でもあります。

皆さんは、この世に生まれて「人生」という名の列車に乗り込みました。その列車がゆっくりと進み、その旅が終わる前に、あなたはそこまでの道のりを、どんな風に過ごしたいですか。「人生」という名の列車が、終着駅に着いたとき、その駅はあなたの家族や親しい人たちにとっての「起点」にもなります。

“あなたらしい生き抜き方”を、あなた自身、いま少し足を留めて考えてみませんか。

すこしだけでいい、あなたの大切な人と話してみませんか。

【グラフ 1】死亡数・死亡率の推移と将来推計



今年10月1日時点で伊豆の国市の高齢化率は31・7%で、年々1%ずつ増加しています。全国的に見ても高齢化が急速に進んでおり、これは、今後さらに亡くなる人が増えていくことを意味しています。

死亡者は今後、さらなる増加が予想される

医療や介護を取り巻く
社会の変化